

視覚に障害がある児童の在籍する小学校等への支援

—サポーターブックの活用を中心に—

星 祐子* 雷坂 浩之**

1. はじめに

筑波大学附属盲学校（以下、本校とする）小学部における視覚に障害がある児童とその在籍校への支援および連携については、「筑波大学特別支援教育研究第1巻」にて、通級・訪問による指導、通級指導連携会議、通級児童の在籍校担任との懇談会等について報告したところであるが、今回は、支援ツールとしてのサポーターブックの作成とその活用を中心に報告したい。なお、第1巻においては、サポートブックという名称を使用していたが、周囲の支援者が主に活用するとの理由からサポーターブックと名称を変更した。

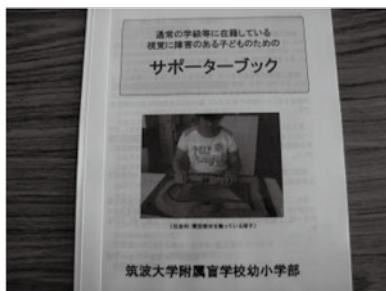
2. サポーターブックの作成

(1) 作成の経緯

在籍校への巡回相談や在籍校の担任や介助・補助教員とのやりとり、通級指導連携会議や通級児童の在籍校担任との懇談会等の中で、話題に上ってきた事項に対して、相談にのり、アドバイスを行っているが、その際、視覚障害への配慮を踏まえた上で、児童の実態や課題、通常の学校の状況や環境に応じて、いかに創意工夫をはかるのかを視点としておさえてきた。

児童の実態や課題、環境等はまちまちであるが、同様の相談事項も数多く、また、担任や介助・補助教員が交替するたびに同じ質問を受けることも多かった。

こうした経緯の中から、支援ツール、継続した支援の必要性を感じ、今までの相談事項とその事項についてのアドバイスを「サポーターブック」としてまとめ、小学校等での活用を考えた。



(2) サポーターブックの趣旨

本ブックの趣旨として、サポーターブックの「はじめに」に、以下のように記した。

視覚に障害のある児童と一口に言っても、全く見えない、明暗はわかる、はっきりした色ならわかる、見えるけれどもぼんやりとしかわからない、目の前に何かがあるのはわかるけれど、それが何かはわからない、見える範囲が狭いなど、その状態は一人一人さまざまです。

視覚に障害があるお子さんは、視覚から入ってくる多くの情報が入らない、入りづらい中で聴覚や触覚などから情報を得ることになります。このため、できるだけ実感を伴って物事が理解できるよう、いろいろな体験をすることや実物や模型などに触れることに心がけることが大切です。

見えないから、見えづらいから、できない、わからないではなく、どういった工夫や配慮をすることで学校生活がスムーズに送れるのか、物事の理解がすすんでいくのかを考えて、このサポーターブックを作成しました。

視覚に障害があるお子さんをお持ちの保護者の方々や、そのお子さんが在籍している学校の先生方に、ご活用いただければ幸いです。

このように、盲学校とは異なる環境の中で、いかに視覚への配慮をしていくのか、環境や教材等を工夫することで学習や生活がスムーズに進んでいくのかを視点として、作成をすすめた。

(3) サポーターブックの内容

以下の事項についてまとめた。

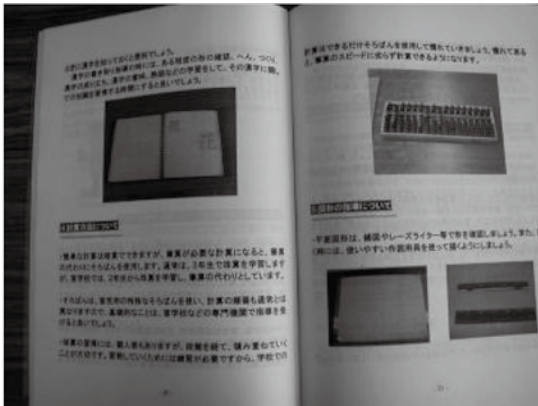
1. 視覚障害について
2. 校内環境の整備について
 - ①校舎周辺で確認することについて
 - ②校内を歩行する際の配慮点について
 - ③教室内の移動について
3. 学習・生活環境の整備について

*筑波大学附属盲学校 **筑波大学特別支援教育研究センター

- ①座席の位置について
- ②机について配慮すること
- ③ロッカーや靴箱の位置および使用法について
- ④本人の印や記名について

4. 教材・教具等の整備について

- ①点字教科書の申請法について
- ②拡大教科書の申請法について
- ③点字教科書の使い方と墨字教科書の違い
- ④地図について
- ⑤レーザーライターについて
- ⑥タッグペーパーについて
- ⑦立体コピーについて
- ⑧タイプライターの使用法および配慮点
- ⑨シール等の活用について
- ⑩運動用具について
- ⑪図書の本(さわる絵本・点字本・拡大写本)について
- ⑫レンズ(ルーペ・単眼鏡)の使用について
- ⑬書見台について



5. 学習内容・方法について

- ①点字学習のポイント
- ②弱視児の文字指導のポイント
- ③全盲児のひらがな・カタカナ・漢字指導について
- ④計算方法について
- ⑤図形の指導について
- ⑥理科の実験や観察について
- ⑦教科書の挿絵の扱い
- ⑧体育の授業について
- ⑨図工の絵画の扱いについて
- ⑩はさみの使用について
- ⑪音楽の指導について
- ⑫裁縫道具・運針について
- ⑬調理について
- ⑭歩行指導について
- ⑮ペーパーテストの取り扱い

6. 生活面について

- ①当番活動について
- ②学習用具の管理法について
- ③連絡帳の取り扱い
- ④眼の管理について
- ⑤友達関係における配慮点
- ⑥周囲の視覚障害に対する理解について

7. 行事への参加

- ①運動会について
- ②学芸会について

これらの項目について、たとえば、以下のようにまとめた。

3. 校内環境の整備について

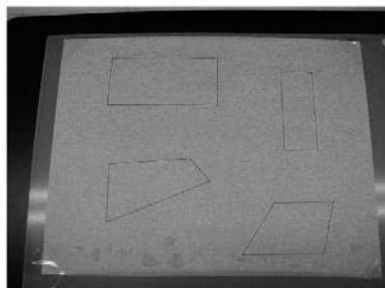
②校内を歩行する際の配慮点について

- ・玄関から教室、教室から体育館、音楽室など移動する教室への経路の確認をしましょう。
- ・廊下に出るだけ突起物などの障害物を置かないようにしましょう。また、常置しているものは、むやみに移動しないようにしてください。
- ・よく使用するトイレの位置の確認をしましょう。男女別の入口、ボックスの数、個室内の座る向き・トイレトペーパー・レバーなどの位置や操作方法の確認などをおきましょう。
- ・水道の蛇口の数や形状、操作方法、せっけんの位置などの確認も必要です。

5. 学習内容・方法について

⑤図形の指導について

- ・平面図形は、線図やレーザーライター等で形を確認しましょう。
また、描く時には、使いやすい作図用具を使って描くようにしましょう。



図形を描いたレーザーライター



ロービジョンスケール

- ・立体図形は、立体模型を使って理解が進むようにします。一つだけでなく、身の回りの具体物を含め、いろいろな物を見て、触って、立体の概念を確かにしていきましょう。
- ・見取り図が通常の教科書には掲載されていますが、そのまま図にすると全盲児にはわかりにくいので、展開図、あるいは、正面やま上からの投影図にして全体像をつかめるようにしてください。

3. サポーターブックの活用

作成したサポーターブックは、視覚に障害のある児童の在籍する学校の担任・介助員や保護者に配布し、活用を図るとともに、アンケート調査により、有効性と課題について検討した。

アンケートの項目は、以下の通りである。

- ①項目について、加えた方がよい項目がございましたら、お書きください。
- ②内容について、わからない、あるいは、わかりづらい箇所等がございましたら、お教えください。
- ③サポーターブック全般についてのご意見・要望等、どんなことでも結構ですので、お書きください。

アンケートに寄せられた意見は以下の通りである。

- ①加えた方がよい項目
 - ・幼児の生活の配慮点も付け加えてもらいたい。
- ②わからない・わかりづらい項目
 - ・教材の入手方法をかいてほしい。
- ③サポーターブック全般への意見・要望
 - ・視覚障害児を理解していく上で、大変参考になった。
 - ・とてもわかりやすく実践しやすいものだと思う。
 - ・弱視と全盲をわけて、さらに細かく書いてほしい。
 - ・大変わかりやすく、今後の支援において参考になった。
 - ・私たち介助員、またこれから新しくつく介助員の心強い味方になること間違いなしである。

・素晴らしいと思う。待ちに待っていたもので、感動した。

・低学年・高学年向きがあればよりよい。

このように、アンケートからは、わかりやすく、今後の支援において参考になったこと、介助員にとって役立つなど、嬉しい反応が寄せられた。同時に、低学年・高学年、全盲・弱視児童と言ったように、それぞれにより詳しい手引きがあれば助かるといった要望も出され、今後への課題となった。

4. 今後の課題

特別支援教育においては、地域の通常の学級等への教育的支援を積極的に行うことが求められているが、本校小学部では、在籍児童の指導に加えて、地域の小学校等に在籍する児童の指導や保護者からの相談、担当教員からの相談に応じるなどの教育的支援に積極的に取り組んできている。その取り組みは、通級による指導や教育相談にとどまらず、巡回相談、通級指導連携会議や在籍校担任との懇談会の実施など、関係機関との連携を図りながら、より包括的な支援体制の構築を試みている。

こうした取り組みのひとつとして、「サポーターブック」を作成・活用を図ってきたところであるが、今後も実際に活用する中で、内容の充実を図っていききたい。そして、より効果的で継続性を有した支援のあり方について検討をすすめていきたい。